

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078700194		
法人名	社会福祉法人 竹里会		
事業所名	グループホーム あぜ道		
所在地	福岡県みやま市瀬高町大江2289番地1 (電話) 0944-62-6888		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 20 日	評価結果確定日	令和 6 年 3 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

少人数でゆっくりと落ちついてすごしていただける日々を大切に、思いやりと笑顔あふれる支援を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 5 年 12 月 8 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は1ユニットで中庭を囲む形の平屋作りであり日当たりが良い。周辺は田畑が広がり交通量も少なく静かな環境にある。食事は三食とも職員による手作りである。台所から調理の音やフロアへ香りが漂うことで利用者が食事を楽しみに感じてもらえるよう工夫している。管理者は教育委員会と連携し小学生に対して認知症サポーター養成講座の講師として関わっている。職員は利用者寄り添うケアが実践できるよう日々話し合いを行っている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所単体の理念は無いが、法人の基本理念をもとに意識の共有と実践を行っています。	法人全体で統一された理念がある。重要事項説明書の事業所目的の項目に地域住民との交流が明文化されている。理念は事務室や玄関にも掲示され第三者も目にすることができる。管理者はミーティングや全体会議で日々の実践が適切であるか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の事業所として活動、ゴミ出しや清掃活動、利用者との買い物や外出先でのイベントなどへの参加の機会が減ってしまった。	事業所として自治会に加入しており、区長から地域活動の案内がある。河川清掃や空き瓶回収は感染対策もあり独自で行った。コロナ禍以前は文化祭などの地域行事やクリスマス会、敬老会などの事業所行事に参加し、地域と交流を図っていた。今後は感染状況に応じて再開する予定である。地域住民から収穫した作物のおすそ分けがある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校との交流は再開したが、他の地域に向けての情報発信が出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の活動やサービスの状況から各委員会より意見やアドバイスをいただいているが、会議自体が書面での代替となっている。	会議は2ヶ月に1回開催している。行事に関することや利用者の状況報告、事故報告、医療的情報、その他活動報告等を話し合っている。家族から預かり金に関する取り扱いについて提案があり、協議し改善した。不参加の構成員にも後日議事録を配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡や情報交換も少しずつ再開し始めている。必要な際は相談や協力は継続されている。	管理者は行政とマイナンバーに関する運用方法、申し込みの相談、介護保険制度に関する手続きなどで日頃から連絡を取っている。教育委員会とは小学生に対する認知症サポーター養成講座を通じて連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常生活内のケアが拘束や虐待になっていないか、常に職員内で相互注意をしている。ケア会議内において見直しや再確認、申し送りなどでの周知を行っている。	身体拘束ゼロ宣言事業所である。身体拘束虐待防止委員会は毎月開催され内部研修も実施している。事故リスク軽減のために居室や玄関にセンサーを設置し、畳部屋を用意するなど環境設定での工夫も行っている。利用者が落ち着かない状況があれば、茶碗洗いや洗濯物たたみ等の役割を持ってもらうことで落ち着きを取り戻すケアも実践している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の委員会や施設内での活動、勉強会が再開し始めたが少ない状況。委員会での資料や勉強会の内容を事業所の会議にて報告し防止への意識を再確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内または事業所内において、以前の様に研修や勉強会は出来ていない。	成年後見制度に関するパンフレットは事業所に準備している。利用者・家族への制度説明や、職員に対する研修を実施していない。	日常生活支援事業や成年後見制度等の権利擁護に関する制度について、職員が研修等で学ぶ機会を設けて理解を深め、利用者や家族に対して権利擁護に関する制度の説明ができる体制の確立を期待したい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・重要事項について説明を行い、内容を十分に把握、理解して納得していただけるよう対応を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内で毎年、利用者家族へのアンケート調査を実施している。家族からの貴重な意見や要望などを各事業所ごとに実施し、結果をもとに対応を行っている。	職員は日常的に利用者の意見や要望を聞き取っている。内容は職員間で共有し、実践できるよう検討している。家族とは面会時に要望を聞き取ることが多く、衣類の入れ替えや男性のフェイスクアに関する要望等に対して実践している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	6ヶ月ごとに全職員への人事考課を行っている。また必要に応じて個人面談を都度行っている。	管理者はミーティングや全体会議で職員の意見を収集しケアの実践に向けてサポートしている。利用者のケアが上手くいかないときは職員間で成功事例を協議し、共通認識をもって支援している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課での各職員の自己評価および管理者との面談を行い、評価のフィードバックを実施している。また資格取得者や長期勤続者への表彰、特別休暇、寸志が与えられている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用面接時に本人の介護に対する思いや考え方などを確認している。採用配属後には個人の能力等を考慮し段階的に知識や技術を習得、向上を図っている。体調・精神面でのフォローなど必要に応じて面談を行っている。	レクリエーション担当等、職員の得意分野を生かして仕事ができるように配慮している。年齢や家庭状況により夜勤回数や休暇の調整も可能である。資格取得や研修参加時に受講料の一部補助も認められる場合がある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修や勉強会が法人内でも再開し始めたところである。それを元に事業所ごとのミーティングなどでの話し合いを通じて、接遇マナー、人権に関する意識を再確認している。	人権については採用時に研修をしている。定期的な職員に対する研修は実践できていないため、今後実施する予定である。	様々な人権について学ぶことが、日頃の利用者のケアにつながる。今後は漏れのないよう年間計画に人権研修を加え、テキストや報告書作成し、実施状況が分かるよう整理することを期待したい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力に応じて内部研修や勉強会が再開し始めた。できる限り参加してもらっている。また面談などでのフォローも行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属している。活動は主にZOOMでの参加。必要に応じて情報や協力体制は継続されており、サービスの向上に活かされている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	質問や要望など都度傾聴を行い、本人だけでなく家族の協力をいただきながら満足のいく形を提供するよう取り組んでいる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望などを事業所において最大限可能な範囲での協力し良い関係づくりに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人から直接あるいは代わりにご家族からの相談や要望などがある際には都度傾聴し検討させていただき、ご本人の満足のいく形をご本人のペースに合わせて取り組んでいる。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、本人が役割など求める気持ちを配慮しケアや環境をふくめた改善を職員優先にならないようバランスを保ち取り組んでいる。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が事業所に来られた際には、利用者の体調や生活の情報などを伝え安心していただくよう職員と共に協力して支えられるように配慮を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限りの関係性の継続に取り組んでいるが、制限などもあり満足に提供を出来ていない。	個人ファイルに性格や興味、趣味、習慣、仕事、生い立ちの情報が記載されている。職員は記載情報をもとにケアを実践している。行きつけだったコンビニエンスストアでアイスクリームを購入したり、道の駅への外出を支援したりしている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	事業所内での催し事や季節の行事等を一緒に行ったり、日常生活内で身近な社会状況を今と昔と話したりと、一緒に共有・共感出来るよう取り組み、一人ひとりの性格や他者との関係性などを配慮し取り組んでいる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了された後でも、まれに家族が来られたりする。あいさつ程度や何気ない立ち話にもなるが、気兼ねなく相談に乗れるよう配慮を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で、たとえ小さな言葉や何気ない話の内容から要望を情報を取り出し、職員へ共有しその実現に向けて出来るよう取り組んでいる。	入所前の生活状況を家族から情報収集している。家族との関わりを大切にし、自宅のことが気になる利用者との関わりにおいても家族協力のもと日帰りで自宅に外出することも実践している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人または家族からの情報提供、担当ケアマネや関係各所からの情報を得て、書面だけでなく直接の生の声を大事にしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で職員一人ひとりが利用者の心身状態の変化を早期発見し共有できるよう取り組んでいる。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別ケアの実施に向けて家族からの要望や本人に関わる職員、協力医などと検討し本人の現状に合った介護計画を作成させていただいている。	介護計画は6ヶ月に1回の頻度で見直している。毎月1回ケア会議を実施し、日頃のケアの振り返りの機会を確保し、家族からの意見も参考に今後の支援について検討している。利用者の状態変化や状況に応じて随時見直しをしている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報は支援経過記録、介護計画実施記録、業務日誌に記載している。職員は業務に入る前にその情報を把握する。ケア会議の中で情報を整理しケアやプランに反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りでの本人や家族の要望を配慮し検討したうえで対応できるように取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源情報は市報や運営推進会議の中で得られるよう取り組んでいるが、書面での代替となってしまう。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や希望されている病院を引き続き受診していただいている。受診日程や変更、調整などは都度家族と協力させていただいている。	契約時に利用者や家族から意向確認を行っている。協力医療機関への受診付き添いに留まらず、協力医療機関以外の医療機関への受診についても職員が付き添いを行っている。その際、出来る限り家族にも同行してもらうことで生活状況の把握や病状の把握、共有の場として有効に活用している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師はいないため協力医や法人の看護師に相談できる体制と早期対応や救急での対応ができるよう取り組んでいる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院対応などの際は情報提供、共有がしつかりとできるように取り組んでいる。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としてできる範囲での支援を説明している。主治医などの交えて今後の方針を家族と確認していただき、要望もふくめ可能な限り取り組ませていただく。	事業所としての対応方針があり明文化はしているが、実際に重度化や終末期を始めとした看取りの支援を行っていない。契約時に利用者や家族に説明を行い、理解を得ている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内などで利用者の急変時や突発的な事案に対し対応が出来るよう協力医などからのアドバイスを元に活用できるよう、法人内での勉強会にも参加し取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を計画しているが事業所内の業務状況により実施が難しい現状がある。隣接する老健施設との協力体制は継続している。	マニュアルを作成している。今年度夜間想定を含め2回計画をしていたが、部分訓練に留まっており、総合訓練の実施まで至っていない。地域住民への参加の呼びかけを行っている。非常用食料や備品は事業所内に保管している。	発災した時の避難は日々のマニュアルに沿った訓練の積み重ねが重要となるため、夜間想定を含め年2回の避難訓練を実施することを期待したい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	法人理念を元に職員一人ひとりが常に考え行動する。利用者の尊厳を損なわないよう対応に取り組んでいる。	同性介助を希望する利用者の意向に沿った支援に取り組んでいる。入浴介助に限らず、男性の利用者含め一人ひとりの希望に応じて決して否定せずに対応している。また、内部研修を通じて、職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉に対し真剣に向き合い傾聴する。そして本人を優先し意思決定が出来るような声かけから始める取り組みを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の基本は利用者の生活ありきという考えを持ち、そこから望まれる物事に対して職員が繋げられるよう取り組んでいる。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り本人の気に入られる整容や衣類選び、その時々合ったお洒落ができるよう配慮させていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好品もふくめ一緒に漬物を漬けて、それを体験し出来上がった物を味わってもらうことで食としての楽しみを提供させていただいている。	3食共に調理師の資格を持つ職員が調理している。台所から聞こえる調理の音やフロアへ香りが漂うことで、食欲につながる五感が刺激され、利用者は日々の食事を楽しみにされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量の記録を行っている。摂取量によっては好まれる食材や飲み物の対応も行っている。また年に一回は法人の栄養士に栄養調査を実施してもらっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の口腔ケア、義歯洗浄を行っていただくよう声かけや手助けを行っている。ただし毎食後には行えていない。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ案内、誘導時には、その利用者に向けた対応を行っている。必要によって定期的に案内や誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンや表情を職員間で共有し、統一した支援が出来るように工夫している。プライバシーへの十分な配慮を心がけ、さりげない支援を意識している。各居室にトイレが備えられている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべくお薬に頼らないよう牛乳や乳製品、ヤクルトの提供にて腸内環境を整えるよう取り組んでいる。また散歩やラジオ体操を日課に取り組みせていただいている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人ひとりの生活習慣に合った入浴を提供している。基本午後からの入浴としているが、できる限り好きな時間に入浴できるよう対応を行っている。	入浴は週2回としているが、毎日準備しており、利用者の希望に応じて支援している。歌謡曲等のBGMを流したり、入浴剤を使用したりする等、入浴を楽しんでもらえるように工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、眠くなったまたは休みたい気分であれば居室へ案内している。気持ち良く休んでもらえるようしっかりとベッドメイクを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員からの薬の情報を元に共有し、正確に配薬を行っている。服薬後の変化など状態観察に取り組んでいる。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりその時の気分や体調によるが、その利用者にあった役割と楽しみやすさ方を個別ケアとして実施できるよう取り組んでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や行事に限らず、外出の機会が出来るように、できる限り取り組んでいるが機会は減ってしまっている。	利用者の希望等に沿って外出の機会を提供している。散歩は週2回、買い物及びドライブは毎月1回程度の頻度で行っている。感染症の流行状況等を考慮しながら、今年は初詣も実施しており、出来る限り利用者の希望に沿った支援を実践している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より利用者のお金として預らせていただいている。必要な時に必要なものを購入していただいている。ただし利用者がお買い物をする機会が減り、自身でお金を使うことが減ってしまった。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望される時などは、ご家族へ電話しお話ができるよう取り組んでいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースをふくめ花や植物または装飾品などを設え、利用者を取りまく環境が居心地の良い場所となるよう取り組んでいる。	家庭的かつ居心地の良い環境の工夫を行っている。日頃から交流がある小学生の手作りの作品を飾ったり、観葉植物を設置する等環境を整備している。今後は春の季節に備え、梅や桜の飾りへの変更や利用者と一緒に花壇の季節の花の手入れも予定している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外でもくつろげるようにソファや畳ベンチを設置。独りでゆっくりと、また気の合う方と一緒にすごすように対応を行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使い慣れた物、馴染の衣類など用意できることによって、自分だけの空間や環境として気分を落ち着かせることが出来るよう取り組んでいる。	居室には、利用者の希望に応じて、夫の位牌や入居前から使用していた衣類、バッグ、眼鏡、テレビ、布団等、馴染みのものが持ち込まれており、日々の生活を居心地よく過ごすことが出来るように配慮している。契約時に利用者の生活背景を丁寧に聞き取っている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	主にバリアフリーでの設えを基本に、分かりやすく見やすいように案内表示等を設置したり、手助けが必要とされる利用者には付き添いや声掛けを行い、安全に生活ができるよう取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		